

責任ある化学物質管理 102-11,102-12,102-15,103-1

花王は、科学的根拠に基づくリスク評価手順とリスク管理手順を用いて、化学物質が人の健康と環境にもたらす著しい悪影響を最小化することを目的に、開発、製造、および使用から廃棄に至るライフサイクル全体にわたって化学物質を適切に管理し、Kirei Lifestyle Planのもと、責任ある化学物質管理を推進して社会のサステナビリティに貢献していきます。

ESG キーワード

SAICM

化学物質のリスク評価

化学物質のライフサイクルでの管理

ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

化学物質は私たちの生活を育み、世界の人々の豊かな生活文化の実現に不可欠です。その反面、化学物質が人と環境に負の影響を与える側面もあります。

2002年に開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD※1)」において、「予防的取組方法に留意しつつ、透明性のある科学的根拠に基づく(化学物質の)リスク評価手順とリスク管理手順を用いて、化学物質が人の健康と環境にもたらす著しい悪影響を最小化する方法で使用・生産されることを2020年までに達成する」との国際目標が合意されました。

この目標の達成に向けて2006年に国連環境計画において承認された「国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ(SAICM※2)」に沿って世界が取り組んできましたが、世界の化学市場は2030年までに2017年に対して倍増すると言われており、より一層の取り組みが求められています※3。

※1 WSSD

World Summit on Sustainable Development

※2 SAICM

Strategic Approach to International Chemicals Management

※3 Global Chemicals Outlook II (UNEP, 2019)

世界化学物質アウトlook第2版(国連環境計画、2019年)より

花王が提供する価値

花王は、「ESG視点のよきモノづくり(ESGよきモノづくり)」のもと、原料から製品の製造、使用、廃棄に至る製品ライフサイクルの中で、人健康や環境への負の影響の低減を図り、サステナブル社会の実現に貢献していきます。

責任ある化学物質管理のために、世界的な化学物質管理強化の動きを踏まえ、2009年に公表した「環境宣言」の中期目標で「SAICMに沿って積極的に化学物質の管理に努める」ことを掲げ、2012年には全社体制として「SAICM推進委員会」を発足させ、これまでに開発・運用していた独自の「化学物質総合管理システム」の深化を含め、化学物質の管理を強化しています。

貢献するSDGs



「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

化学物質を適切に管理しない場合、人健康や環境への問題を引き起こす場合があり、事業の継続が困難になります。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わる機会

「責任ある化学物質管理」を推進することで、サステナブルな社会実現に貢献し、社会的信頼を得る機会となります。

方針

花王は、工業用製品から家庭用製品まで幅広く化学物質を取り扱っており、以前から、積極的に化学物質管理を進めてきました。国際的に合意されたSAICMに沿って策定した「SAICM推進の基本方針」のもと化学物質管理を推進・強化しています。

2020年以降については、花王としてのめざす姿と実現するためのアプローチを新たに設定し、2020年4月に公表しました。2021年よりこのアプローチを通じて、「責任ある化学物質管理」を推進していきます。

SAICM推進の基本方針

1. より安全性にすぐれ、価値のある化学物質の開発と使用、環境負荷の少ない製造プロセスの開発
2. 科学的なリスク評価とライフサイクル全体を通じた化学物質管理
3. 化学物質に関わる法規制・自主基準の遵守と国際協力・国際協調の推進
4. ステークホルダーとのリスクコミュニケーションの推進



→詳細は「SAICM推進の基本方針」
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao.com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/saicm-policy.pdf

教育と浸透

化学物質管理の意識を高め、より正しい理解を深めるために、化学物質を取り扱う研究員を含む作業者を中心に、講習や外部有識者の講演会等を継続的に行なっています。今後は、「2030年までに達成したい姿」実現に向けて、より幅広い社員への教育も進めていきます。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

製品を安全に安心してお使いいただくため、ステークホルダーとの双方向コミュニケーションの一環として、顧客や消費者に製品の安全性にも関わる化学物質の情報を伝えています。また、社会のより安全な化学物質利用に貢献するために外部有識者や外部専門家等との意見交換も行ない、行政や産業界とともに化学物質管理を推進していきます。

体制

花王は、SAICMの目標達成に向けた取り組みを具体的に加速させるため、社長執行役員が委員長を務めるサステナビリティ委員会（現：ESG委員会）のもとに「SAICM推進委員会」を2012年に発足させました。

SAICM推進委員会は、品質保証部門担当常務執行役員が委員長を務めています。

委員は主要な部門から選出されており、提案された取り組みは花王グループ各部門の日々の業務に反映されています。

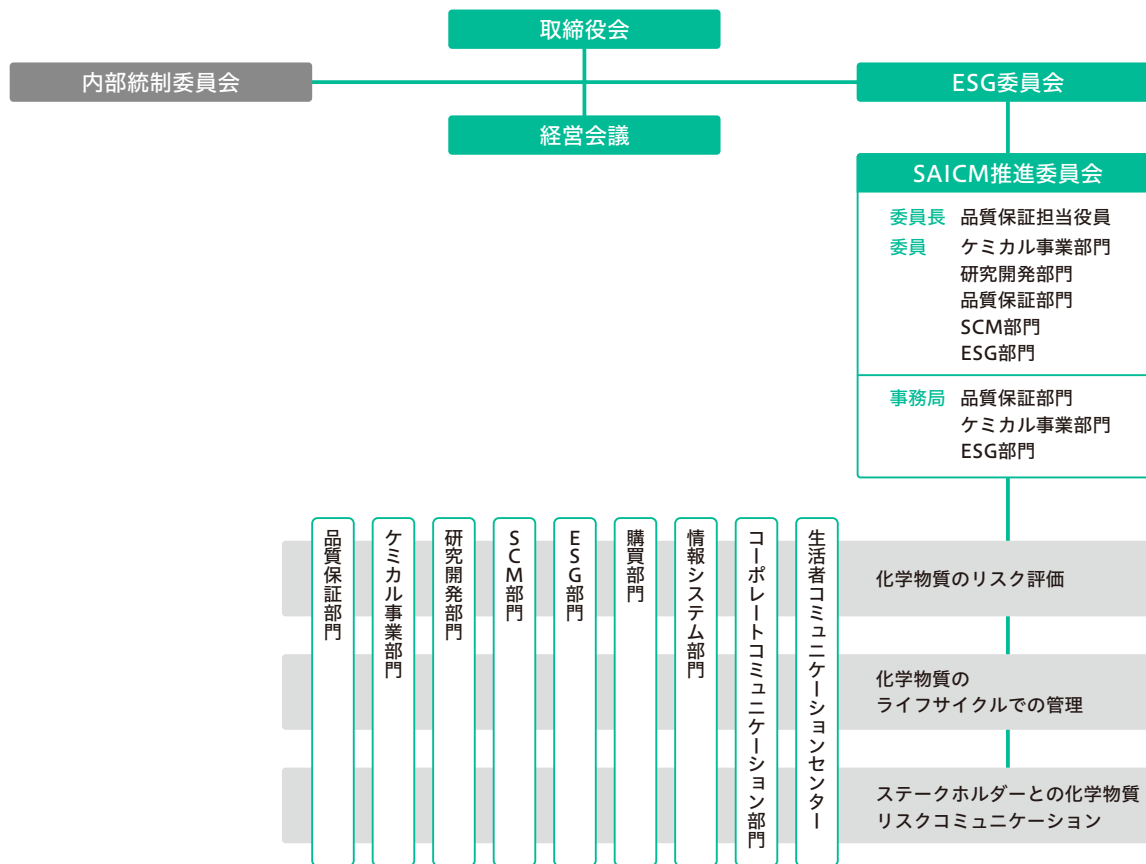
主として；

- (1) 化学物質のリスク評価
- (2) 化学物質のライフサイクルでの管理
- (3) ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション

の3つを主なSAICM推進活動として掲げ、それぞれに対応するプロジェクトを設置して活動を推進してきました。各プロジェクトのミーティングに加え、年に3-4回開催されるSAICM推進委員会では、計画、進捗報告、見直しのほか、外部有識者を招いた講演会も開催しています。

責任ある化学物質管理 103-2

SAICM活動推進体制



※2020年12月現在



→ ESG推進体制について詳細はP18「ESG推進体制」

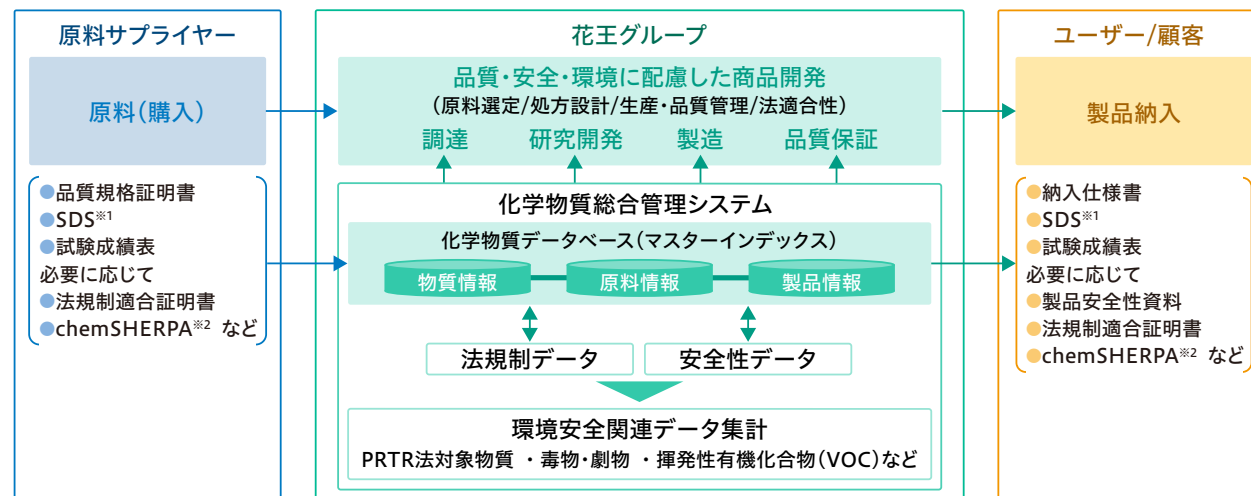
化学物質総合管理システム

花王はSAICM活動推進体制を中心とした化学物質管理の強化に加え、サポートツールとして高度なITシステム「花王化学物質総合管理システム」を開発し、グループ全体での利用を推進しています。

このシステムでは、工業用製品から家庭用製品に至るまでの多様な製品に含まれる種々の原料について、その構成成分にまで分解してデータベース化し、製品ごとにどのような品質、安全性、防腐性、法規制情報などを持った原料が使われているかを確認できます。万一、原料に問題が発生した場合、あるいは新たな懸念物質などが発生した際は、影響範囲を迅速に特定し、適切な対応ができるようになっています。

化学物質に対する規制のグローバルでの変化や、事業分野・エリアの拡大に対応すべく、製品中の化学物質に関わる最新の情報管理をめざした化学物質総合管理システムのさらなる機能強化を継続しています。

花王化学物質総合管理システム



※1 SDS

Safety Data Sheet

化学製品を安全かつ適切に取り扱うために、製品に含まれる物質名、危険有害性情報、取り扱い上の注意などに関する情報を記載した書類。

※2 chemSHERPA

製品に含有される化学物質を適正に管理し、拡大する法規制に継続的に対応するためのサプライチェーン全体で利用可能な新しい情報伝達共通スキーム。

→chemSHERPA ウェブサイト <https://chemsherpa.net>

中長期目標と実績

2020年中期目標

1. 化学物質のリスク評価

花王は、製造・使用数量、人や環境への曝露量や、企業活動における重要性などを考慮して「花王優先評価物質」を選定しています。それらの物質について、リスク評価の基本方針に基づいて環境への影響が予想される範囲も含めて評価し、適切に管理しています。



→リスク評価の基本方針
chemical.kao.com/jp/sustainability/saicm/article_03/

化学物質のリスク評価は以下を目標にしています。

- 花王優先評価物質(19カテゴリー)のリスク評価の2020年までの実施と継続



→花王優先評価物質の安全性要約書
chemical.kao.com/jp/sustainability/saicm/article_05/

19カテゴリーの例

- ・アルキルグリコシド(非イオン界面活性剤): 台所用洗剤、住居用洗剤、身体洗剤、シャンプー等一般家庭で幅広く使用
- ・ポリオキシアルキレンアルキルエーテル(非イオン界面活性剤): 衣料用洗剤、台所用洗剤、住居用洗剤、シャンプー、漂白剤等一般家庭で幅広く使用
- ・直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(陰イオン界面活性剤): 衣料用洗剤、台所用洗剤等一般家庭で幅広く使用
- ・トナー用ポリエステル樹脂(トナーバインダーとして使用されるポリエステル樹脂)

2. 化学物質のライフサイクルでの管理

化学物質を取り扱う現場で化学物質が作業者の健康に悪影響を及ぼさないように、以下の目標を設定しています。

- 化学物質を取り扱う現場でのリスクアセスメントおよび対策の2020年までの実施と、新規取り扱い物質のリスクアセスメントおよび対策の継続

3. ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション

製造・販売している化学物質の安全性情報をサプライチェーン全体に伝達し、化学物質に関わる安全を確保し適切に使用、対応できるように、以下の目標を設定しています。

- 花王優先評価物質の安全性要約書20件の2020年までの公開と継続
- ケミカル製品のGPS 安全性要約書※150件の2020年までの公開と継続

※ GPS 安全性要約書
一般社会に対して化学物質の安全性情報の概要を提供する書類。物理化学的特性のほか、リスクが適切に管理される使用・加工の取り扱い条件、リスク管理措置などが記載された書類で、川下ユーザーへの情報伝達にも利用される。

中長期目標を達成することにより期待できること

事業インパクト

- ・ 中期目標達成に伴う花王事業への顧客信頼性向上と円滑な事業活動への貢献
- 2011年以来、花王の事業活動に重要な化学物質19カ

テゴリーを花王優先評価化学物質として選定し、リスク評価を行なって安全性を証明し、安全性要約書(22件)・GPS 安全性要約書(177件)として公開しました。これにより、消費者、顧客、従業員、行政などのステークホルダーの花王製品やその原料となる化学物質への理解が深まり、花王への信頼性を高め、事業活動を円滑に推進することができました。

- ・ 長期目標達成に期待されるさらなる信頼性向上と事業成長

今後、安全性と有用性を両立した化学物質を成分とする製品と情報をステークホルダーに提供し続けることで、一層の信頼を得て、事業の成長につながります。

社会的インパクト

- ・ 中期目標達成に伴う化学物質評価手法の技術進歩、および行政の化学物質管理の効率化への貢献
- 化学物質のリスク評価結果の公開を通じ、社会全体の化学物質管理の効率化に寄与しました。また、花王が高精度化したリスク評価手法の検証や普及を目的として行政関連機関、業界団体への開示と共同研究を進め、化学物質管理のレベルアップという社会課題の解決に寄与しました。
- ・ 長期目標達成に期待される社会における安全・安心の確保と環境問題の解決
- 今後、この成果を社会実装し世界の人々の安全・安心を確保することで、「社会の公器」の役割を果たし、地球と社会の課題解決に邁進します。

2020年の実績

SAICM推進委員会は、2020年の各プロジェクトの目標として以下を掲げ、計画通り活動しました。

2020年の目標

1. 化学物質のリスク評価

- ①花王優先評価物質のリスク評価および評価書の作成(3カテゴリー)
- ②リスク評価手法の最適化への貢献(学会で議論、論文化)
- ③2030年めざす姿を実現するための取り組み:評価物質選定基準の見直し等
- ④化学物質総合管理システムのグローバル基盤構築、日本における機能運用開始

2. 化学物質のライフサイクルでの管理

- ①化学物質を取り扱う現場でのリスクアセスメントに基づいたリスク低減対策:日本以外の地域においての展開推進、研究所のリスクアセスメント推進
- ②作業場 GHS※表示の日本以外の工場への展開継続

※ GHS
Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals
化学品の分類および表示に関する世界調和システム

3. ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション

- ①SAICM推進活動成果物の一般公開、発信と資産有効活用
花王優先評価物質の安全性要約書3件、ケミカル製品

のGPS安全性要約書18件

- ②双方向コミュニケーションの実施と戦略立案/継続
ステークホルダー:消費者、顧客、行政、産業界

実績に対する考察

花王の化学物質に関する取り組みにおいて、全プロジェクトで2020年までの目標を達成しました。

ステークホルダーとのコミュニケーションも含めた化学物質管理の取り組みが地球・社会の課題解決に不可欠と再認識しました。取り組みを通じて再認識した課題は委員会で共有し、2021年以降の活動に盛り込み対応していきます。

2030年の中長期ビジョンである、めざす姿を実現するための議論を引き続き進めています。

具体的な取り組み

化学物質に関する社内教育

2020年は、以下の活動に取り組みました。

- ・製品開発段階からの化学物質管理啓発のため、品質保証部門と研究開発部門が中心となり化学物質管理の社内説明会と外部有識者講演会をオンラインで開催し、約400人が参加しました。
- ・製造現場での事故防止や環境保全意識等の向上に努めるため、SCM部門は入社時・配転時の教育から専門分野・経験に応じた教育プログラムを構築しています。その中で化学物質の危険性・有害性に関する教育を行ないました。

ステークホルダーとの化学物質に関するコミュニケーション

SAICM推進の基本方針を踏まえ、以下の活動に取り組みました。

花王は、化学物質のリスクに関する情報を関わる人々と共有し相互理解すること(リスクコミュニケーション)で、化学物質をより安全に使用し、お互いの信頼と安心を育てられるよう、継続的に取り組んでいます。

1. 生活者との連携/コミュニケーション

工場周辺の住民の皆さまを含む生活者に信頼していただくため、化学物質のリスクに関する情報についてコミュニケーションを継続しています。

2020年の主な活動は以下の通りです。

- ・日本化学工業協会レスポンスブル・ケア地域対話への参加や、各事業場のサイトレポート公開を通じて、環境・安全・健康に関する取り組みを紹介しました。
- ・大学の講座「リスク社会とコミュニケーション」に協働し、花王の取り組み紹介を通じて地域社会とのコミュニケーションの重要性について、学生と意見交換を行ないました。



→横浜国立大学の講座「リスク社会とコミュニケーション」に協働

www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics/sustainability-20200225-001/

- ・社会における化学物質管理への理解向上および管理能力の啓発のために、花王のSAICM推進活動を「月刊 化学物質管理」(情報機構)で紹介しました。



→月刊 化学物質管理 2020年2月号

johokiko.co.jp/publishing/BM160800_2002_index.php

2. 代理店・顧客との連携

花王は、サプライチェーンを通じて化学物質を安全に取り扱い、化学製品がもたらすベネフィットを最大限に引き出すため、顧客・販売代理店と情報共有に取り組んでいます。

責任ある化学物質管理 102-13,102-43,413-1

含有化学物質情報の提供

ケミカル製品に含まれる化学物質の管理(製品含有化学物質管理)を積極的に進め、顧客へ情報提供しています。

顧客への製品含有化学物質情報の提供に関して、経済産業省が主導して開発した製品含有化学物質情報伝達スキーム「chemSHERPA」を業界に先駆けて採用し(2017年9月)、最新版のchemSHERPA-CI※を花王のウェブサイト継続的に公開(日本語・英語・中国語)し、日本およびアジアの関係会社を中心になって顧客に配布しました。

※ chemSHERPA-CI
特定の化学物質情報を伝達するための化学品データ作成支援ツールおよびその帳票

SDSおよび製品ラベルのGHS対応

ケミカル製品に係わる最新化学物質関連情報を顧客等に提供するため、各国のGHS規則に対応したSDSの発行、製品ラベルの貼付を推進しています。

2020年は、GHS導入国の最新GHS規則に準拠したSDSおよび製品ラベルを迅速に作成・管理する機能を持つ化学物質総合管理システムが稼働しました。このシステムも利用して日本およびアジアの拠点からGHS運用国・地域(日本、アジア、欧州、米国)へ新規に販売する製品について、GHSラベルの作成と貼付を行いました。また、各国・地域の法規動向を確認し、必要に応じてSDSやラベルの更新を行ないました。

さらに日本においては、新JIS※に対応したSDSとラ

ベルの改訂を進めています。

※ JIS
Japanese Industrial Standards, 日本産業規格

販売代理店との連携

ケミカル事業部門は、販売代理店との専用ネットワークを活用し、SDSやchemSHERPA-CIなどの情報を共有し、サプライチェーン上での化学物質管理を協働で推進しています。

2020年は、これらの改訂情報や化学物質関連法規制、輸出入管理に関する最新情報を掲載して顧客への対応を依頼しました。

また、10月には主なケミカル製品販売代理店の参加のもとオンラインで情報交換会を開催し、コロナ禍における国際物流のあり方について情報交換しました。さらに、12月にも主な販売代理店に対し世界の化学品法規制を含む最新動向や対応等についてオンラインで情報交換を行ないました。

3. 行政との連携

日本では、化学物質に関わる規制当局の信頼を深め、化学物質を取り扱う企業としてより適正な化学物質管理に取り組むため、行政関係者とオンライン等で4回の情報交換を行ないました。

4. 産業界との連携

産業界の化学物質管理の取り組みに貢献するため

種々の活動に参加しています。

日本の化学工業界がSAICMに貢献するために化学物質管理を強化する自主的な活動であるJIPS※¹に積極的に参加しています。また、欧米の化学業界と共に日本化学工業協会が推進するLRI※²にも引き続き積極的に参加して、研究の支援を行ないました。

2020年10月に公表された欧州の化学政策の方向性に関するEU Chemical strategy for sustainabilityは、世界的な化学関係産業に影響を与える可能性があることから、日本の化学工業界と共に注視して情報収集に努めました。

日本石鹼洗剤工業協会(石洗工)では、製品や原料のヒトおよび環境安全性について議論する環境・安全専門委員会の主要なメンバーとして活動しました。化審法などの化学物質規制で用いる環境リスク評価手法をさらに精緻化するため、行政の検討会等で積極的に意見を交わしました。

※¹ JIPS
Japan Initiative of Product Stewardship
SAICMの合意を受けて、国際化学工業協会協議会(ICCA)が推進している「グローバルな化学物質管理を強化する行動指針(GPS)」に基づいた取り組み。

※² LRI
Long-Range Research Initiative
化学物質が人の健康や環境に及ぼす影響に関する研究を長期的に支援する国際的な取り組み。

中期目標に対する2020年の実績

2020年の中期目標に対する2020年の実績は以下の通りです。

1. 化学物質のリスク評価

①花王優先評価物質のリスク評価および評価書の作成（3カテゴリー）と公開

- ・計画通りリスク評価を終了（累計24カテゴリー）。3カテゴリーともにリスクは許容可能レベルを確認
- ・2020年は、2018年にリスク評価を行なった花王優先評価物質の安全性要約書3件を公開
- ・ケミカル製品についてGPS安全性要約書を18件作成（日本語版と英語版）し、公開。グローバル公開件数は累計177件

2020年公開

アミドアミン、アルキル硫酸エステル塩、ポリエチレングリコール類



→花王優先評価物質の安全性要約書
chemical.kao.com/jp/sustainability/saicm/article_05.html

→GPS安全性要約書
chemical.kao.com/jp/sustainability/saicm/article_06/

②リスク評価手法の最適化への貢献（学会での議論による専門家とのリスク評価手法の理解の深化）

- ・『生活関連化学物質のヒト健康および環境影響に関するリスクアセスメント - 消費者製品の使用を考慮したアミドプロピルペタインの安全性評価 -』日本毒性学会にて発表

③2030年めざす姿を実現するための取り組み：以下を議論

- ・花王 SAICM 推進活動における方針（新方針含む）
- ・花王優先評価物質の選定基準の作成および評価候補物質の選定

④化学物質総合管理システムのグローバル基盤構築（加速する社会／環境の変化、事業分野／展開国拡大への対応を強化）

- ・2020年1月より日本を含むアジア地域での本格運用を開始

実績を通じた成果：

- 3カテゴリーのリスク評価結果を安全性要約書として公開し、お客様へ安全性情報を的確に伝えることで安全性向上と信頼の醸成に貢献
- リスク評価結果の専門家との議論で花王の技術力と製品の安全性向上に貢献
- 各国の法要求を遵守する体制を強化
 - ・JIS改正（GHS6版対応）に伴う日本版 SDS / ラベ

ル改訂着手

- ・アジア各国の要件に合致したSDS提供を開始
- ・物質ごと/目的ごとの数量集計を可能にする新機能のリリース（欧州 REACH、韓国 REACH、台湾年次数量報告などに活用）

2. 化学物質のライフサイクル管理

①化学物質を取り扱う現場でのリスクアセスメントに基づいたリスク低減対策

化学物質を取り扱う現場における作業者のための健康安全確保に関する主な活動：

- ・健康リスク評価の必要な製造作業の抽出とその詳細検討によるリスク低減推進（日本）。これらは、国際的に使用されている評価手法を基に、花王で開発したより効率的なリスク評価支援ツールを使用
- ・日本で実施している化学物質リスクアセスメントのアジア展開を可能にするため、アジア12工場でSDSの最新版再取得を推進
- ・日本ではJIS改正に伴い、最新版 SDS 入手を開始

②作業場 GHS 表示の日本以外の工場への展開継続

日本以外のグループ会社22工場のうち、アジアの12工場で作業場 GHS 表示の強化・維持を推進（参考：日本10工場）

- ・作業場 GHS 表示の日本自社工場での維持・継続および日本以外の自社工場への展開・強化を継続
- 実績を通じた成果：

責任ある化学物質管理 103-2,103-3

- ・花王開発のリスク評価支援ツールによるリスクを持つ作業抽出と改善を継続。2020年11月時点で約20,000件の作業について評価を完了。リスクを持つと推定される作業のリスク低減措置検討と改善の推進を開始
- ・アジア12工場で購入する原料のSDSでGHS化の必要性を確認し、約180件のSDS再取得を完了



作業所 GHS 表示の例 (左から貯蔵タンク、原料受入れ口、分析室)

3.ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション

- ① SAICM 推進活動成果物の一般公開、発信と資産有効活用
- ・花王優先評価物質の安全性要約書3件、ケミカル製品のGPS 安全性要約書18件



→詳細はP227「花王優先評価物質の安全性要約書」「GPS 安全性要約書」

- ② 双方向コミュニケーションの実施と戦略立案 / 継続
ステークホルダー: 消費者、顧客、従業員、行政、産業界



→詳細はP225「ステークホルダーとの化学物質に関するコミュニケーション」

実績を通じた成果:

- ・化学物質の安全性情報をGPS 安全性要約書を通じてサプライチェーン全体に伝達し、安全の確保と適切な使用の啓発に貢献
- ・日本化学工業協会のJIPS 大賞を2年連続で3回目の受賞。その成果は日化協アニュアルレポート2020にも紹介



→日化協アニュアルレポート2020
www.nikkakyo.org/news/page/8356

- ・ステークホルダーごとの双方向コミュニケーションを通じて、信頼醸成に努め、環境省 PRTR ガイドブックや業界向け雑誌で花王の化学物質管理に関する取り組みを社会に紹介
- ・行政、自治体、大学からの要望を受け化学物質管理に関する対話を行ない、花王の取り組みの行政や教育の場での活用貢献



→PRTR データを読み解くための市民ガイドブック
www.env.go.jp/chemi/prtr/archive/guidebook.html

→月刊 化学物質管理 2020年2月号
johokiko.co.jp/publishing/BM160800_2002_index.php

新型コロナウイルス感染症による社会と環境変化への対応

アルコールを配合した手指消毒剤ニーズの急速な高まりに迅速に応え、大幅な増産と供給が可能となっています。

従業員の声

ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション



長谷部 恵子

花王株式会社 ESG 部門※

化学物質に関しては、対象とするステークホルダーにより、その理解が大きく異なるため、各々の対象者とのコミュニケーション内容や手法について、社内関係者とともに議論を重ねています。

特に、一般の生活者や工場周辺住民に向けては、極力専門用語を使わずに、いかにわかりやすく化学物質の有用性とリスクを伝えられるかがポイントで、家庭用製品など生活に身近な製品のメーカーでもある花王だからこそできることがあるとの想いで工夫しています。

一方で、大学関係、有識者や行政の方々には、花王の活動の見える化をどのように行なうべきかを検討し、意見交換の機会、ウェブサイトや関連情報誌への投稿などを積極的に行ないました。

今後も、ひとりでも多くの方に化学物質に関する正しい理解を広め、安全で安心できる社会の実現に貢献する活動を継続していきます。

※ 所属は2021年1月現在

グローバルな化学品法規制への適合

世界的な人健康や環境への関心の高まりに伴い、化学品法規制が強化されつつあります。

花王は、SAICM推進の基本方針に従い、製造もしくは直接・間接的に輸出している製品中の化学物質について、対象国や地域での化学品管理制度に基づき、その数量や危険有害性に応じた登録と管理を実施しています。

2017年よりケミカル関連会社に輸出入時の法規制チェックが行なえるシステムを導入し、法遵守の徹底に努めています。

1. 日本

化学物質の審査および製造等の規制に関する法律(化審法)に基づき、サプライチェーン連携を通じて既存化学物質の用途情報を調査し、確実に報告しました。

また2020年度から制度化された、中間物等に係る実績報告書の電子提出を迅速に導入し、実施しました。

2. オーストラリア

2020年7月に改正された化学法(AICIS^{※1})が施行されました。一部の化学物質には旧法からの移行期間が設けられており、Kao Australiaは各国の拠点とも連携して、新法への対応に着手しました。

※1 Australian Industrial Chemicals Introduction Scheme

3. 中国

新化学物質環境管理弁法に基づき、現地法人と連携し、自社製品に含まれる新規化学物質について製造・輸入前の届出・登録および数量報告を行ないました。2021年1月から施行される改正法(第12号令)について事業インパクトを調査し花王グループ内でのコンプライアンス啓発に努めました。

4. 韓国

2019年1月1日施行の改正化評法(K-REACH)^{※2}に基づき、花王として選定した登録対象物質すべての事前申告をすでに完了しています。2020年は、そのうち2021年末までに登録完了が必要な物質について、協議体の中心的役割を担って登録作業を進めました。

※2 化評法(K-REACH)
Act on Registration and Evaluation, etc. of Chemical substance
韓国の化学物質の登録および評価等に関する法律

5. ベトナム

ベトナムでは化学品法の下、既存化学物質のリスト(国家化学物質インベントリー:NCI)の作成が進められています。花王はNCI草案に未収載で収載が必要な物質について、追加収載の申請を実施しました。

6. その他

米国ではTSCA^{※3}で4年ごとに求められる情報をKao Specialties Americas LLCが適切に報告しました。

さらに、化学品管理制度を導入している欧州、北米、

東・東南アジア、オセアニアの各国・地域の現地法人と連携して製造・輸入に必要な届出や管理を確実にを行い、規制の新たな動きの情報収集にも努めました。

※3 TSCA
Toxic Substances Control Act
米国において、人健康や環境に対して不合理なリスクのある化学物質を規制する法律

Topic 花王が「JIPS賞」大賞を受賞

花王は、SAICM推進活動の成果として、安全性科学研究所、品質保証部門、ケミカル事業部門と協働でGPS安全性要約書を作成し、2012年から積極的に公開しています。花王はGPS安全性要約書を昨年日本で最多の18件公開したことから、2020年3月に前回に続き最優秀の「JIPS大賞」を受賞しました。大賞は3度目の受賞です。

「JIPS賞」は、日本化学工業協会の化学品管理委員会が2017年に創設した制度で、化学品管理の自主活動であるGPS安全性要約書の公開について、顕著な取り組みを行った企業に対して毎年授与しているものです。

2012年～2020年中期目標に対する活動総括

SAICM推進委員会は2012年の発足当時から、2009年の「環境宣言」で公開した「SAICMに沿って積極的に化学物質管理に努める」に沿って、SAICM推進の基本方針を掲げ、以下3つのプロジェクトで活動を推進し、目標を達成しました。

①化学物質のリスク評価

- ・花王優先評価化学物質（評価対象物質）を選定（19カテゴリー）しリスク評価を実施。その結果を安全性要約書として22件、その物質を含むケミカル製品のGPS安全性要約書を177件公開しました。これら活動は日本化学工業協会のJIPS/GPS活動においてJIPS大賞（2016年、2018年、2019年）、JIPS優秀賞（2017年）を受賞し、業界で認められました。
- ・各国・地域ごとに管理していた化学物質の法規情報および数量を迅速かつグローバルに管理するため、従来の機能を集約した一元管理システムを新たに開発し、2020年より運用を開始しました。

②化学物質を取り扱う現場でのリスクアセスメントおよび対策の実施

日本の全工場の取り扱い現場における作業工程について、評価と安全対策が完了しました。日本以外のグループ工場では実態把握を進め、情報収集と体制構築を開始し、2030年に向けて継続して対応します。

③ステークホルダーとのコミュニケーション

花王のウェブサイトで活動を紹介する情報発信や、取り扱い物質の安全性要約書の公開を行ないました。また、研究機関や行政、工業会とも連携し、化学物質管理の推進を進めています。

さらに、わかりやすい発信と対話による信頼を醸成するため、生活者などさまざまなステークホルダーごとにコミュニケーション方法を整理し、それぞれが望んでいる情報を精査し、継続的なコミュニケーション活動を実施しています。

一方、SAICMの目標とする「リスクを最小化した製造・使用」「持続可能な社会の実現」への貢献を振り返り、工業会や行政にも認めていただける化学物質管理活動を推進してきました。しかしながら個社の取り組みだけでは達成できないこと等、課題も見えてきました。

花王にとって最大のステークホルダーは生活者であることを再認識し、生活者にとって最適な化学物質管理とは何か、生活者が安心して暮らせる日常と未来の実現にはどのようなコミュニケーションが必要なのか、という視点で2030年までの活動を推進していきます。

2030年長期目標に向けた実績

2030年めざす姿を実現するための新体制運用（2021年～）に向けた議論

2030年めざす姿

私たちは、世界の人々が化学物質の恩恵を享受し、リスクが適切に管理される安全・安心な社会の構築に貢献したいと考えます。この社会の実現に向けて、花王は、ESG活動を通じて「責任ある化学物質管理」を先導していきます。

2030年めざす姿を実現するための5つのアプローチと体制

今後、花王がめざす姿を実現するための5つのアプローチごとにチームを編成し「責任ある化学物質管理」を花王グループ全体で推進していきます。

1. 製品ライフサイクル全体で環境負荷を最小化
2. 化学物質による事故ゼロの実現と、地域社会の安全確保・安心の醸成
3. 化学物質のリスク評価手法の適正化と、管理効率の向上
4. 化学物質の有用性と安全性に関する情報をわかりやすく開示
5. 社会から信頼される企業になるためのコミュニケーション

ステークホルダー・エンゲージメント

リスクコミュニケーションから 新たなコミュニケーションへの転換を



北野 大 氏

秋草学園短期大学

「SAICM 推進委員会」の下、(1)化学物質のリスク評価 (2)化学物質のライフサイクルでの管理 (3)ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーションの3つのプロジェクトが当初の目標以上の成果を上げたこと、また2030年に向け新たなプロジェクトが発足することに対し心から敬意を表します。

ここでは今後の貴社のリスクコミュニケーションについて、当方からのお願いと期待を述べさせていただきます。上記のプロジェクト(3)においては、一般市民、工場周辺住民、規制当局等を対象に化学物質のリスクコミュニケーションを行ってきました。リスクコミュニケーションといいますと、どうしてもコミュニケーションの対象が化学物質のリスクにほぼ限定されます。私はリスクに限定せず化学物質の有用性も含め化学物

質のライフサイクル全体を対象としたコミュニケーションが今後必要であると思います。

そこで、お願いしたいのは、工場近辺の地域住民や生活者を対象とし、貴社が主体性をもって行なう新しい形のコミュニケーションの開催、また小学校や中学校生徒を対象とした化学物質安全教育です。

このコミュニケーションの中で、貴社の工場が立地していることが地域住民にとっても望ましいことであり、また適量使用が経済的にも環境的にも重要なことであるとの認識などを持ってもらうことです。良い会社とは顧客に愛され、従業員に愛され、地域から愛されそしてステークホルダーからも愛される会社です。

さてコミュニケーションで最も大切なことは相互の信頼です。この信頼は担当者の能力への信頼と人柄への信頼から成り立ちます。貴社が皆さまから信頼されるコミュニケーションを養成することをぜひとも期待する次第です。

今後途上国の生活レベルが上がり、従来以上に貴社製品が途上国でも使用されるようになります。日本で培った新たなコミュニケーションの経験をぜひ途上国でも活かしていただき「諸刃の剣」でもある化学物質の有用性をさらに活かした賢い使用方法が世界で広く行き渡よう、貴社がそのリーダーになることを期待しています。